

国際ロータリー第2790地区 袖ヶ浦ロータリークラブ

週 報



例会日 毎週月曜日 12:30~13:30 例会場 レストラン菜心味袖ヶ浦店 電話:0438-60-1753
事務所：〒299-0263 袖ヶ浦市奈良輪 2 番地 10 アルスコンドウ七番館 101 号室
電話:0438-64-1139 FAX:0438-64-0795 MAIL:sode1974@portland.ne.jp

N O . 2 3 0 7 第 3 0 回 例 会 2 0 2 6 . 4 . 2 0 (月)

本日の予定 第31回例会 4月27日

会員卓話「入会して1年が過ぎての感想」

鈴木慶太会員

【司会進行】領家 宏治 SAA
【点 鐘】荒木 行雄 会長
【ソ ン グ】それこそロータリー
【副会長挨拶】領家 宏治 副会長



皆さま、こんにちは。

本日もお忙しい中、例会にご出席いただき、誠にありがとうございます。

先週荒木会長から2026年度になりましたという話がありました。各社におかれましては、新年度を迎えて大変な時期かと思えます。弊社袖ヶ浦火力発電所には、何年かぶりに新入社員が来月下旬に配属される予定で、現在は本社で集中的に研修中です。配属されるのは4人で、いずれも高卒で18歳です。これまでは平均年齢53歳の高齢化した発電所なので職場の環境、雰囲気は大きく変わるものと思えます。が、若す

ぎてどう取り扱っていいのかかなり心配なところはあります。

さて、世界に目を向けますと、中東情勢は依然として不透明さを増しており、エネルギー市場にも大きな影響を及ぼしております。特に石油をはじめとするエネルギー価格は、地政学リスクや需給動向に左右されやすく、私たちの事業や日常生活にも直結する重要な課題であります。

ホルムズ海峡封鎖の影響も大きいものがありますが、弊社はこの3月で油火力を廃止しましたので、燃料としては石炭とLNGになります。こうした中、私どもJERAとしては、安定供給の確保に向けて調達先の多様化と長期契約の強化を進めております。実際に、LNGの調達量の半分は、アジア・オセアニア地域からとなりますが、米国を含めた複数地域からの調達拡大や、長期契約の締結により、供給リスクの分散を図っているところです。ただし、燃料の市場価格が高騰すると燃料費は上昇し、国内の電力・ガス価格にも影響を及ぼす可能性が高いため、動向を注視しているところです。

LNGの消費を抑制するため、非効率な石炭火力を稼働させる政策が今年度実施されますが、石炭を使用するということは脱炭素をすすめる

2025-2026年度 国際ロータリー会長：フランチェスコ・アレッツォ

地区ガバナー：時田 清次 第5グループガバナー補佐：渡邊 慎司 会長：荒木 行雄

会長エレクト：斉藤 真己 副会長：領家 宏治 幹事：津留 三枝子 副幹事：福原 孝彦

ことに逆行します。エネルギーを取り巻く環境は、脱炭素化の流れとエネルギー安全保障の両立という難しい課題に直面しております。

このような世界情勢だからこそ、ロータリーの「奉仕の理念」が一層重要になると感じております。世界のロータリアンが平和にむけて行動してほしいと思います。

以上、本日の副会長挨拶とさせていただきます。

本日もどうぞよろしくお願いいたします。

☆ニコニコ BOX☆

荒木 行雄 会長
津留 三枝子 幹事
餅田 則雄 会員
高村 和朗 会員
松尾 昭憲 会員
鈴木 貴志 会員
鈴木 慶太 会員
福原 孝彦 会員
鈴木 孝雄 会員
齊藤 真己 会員
勝畑 元宏 会員

早坂さん、内藤さんの自己紹介にニコニコします。

内藤会員、早坂会員の自己紹介卓話に感謝して！！

内藤さんと早坂さんの卓話に感謝！！

早坂さん、内藤さんの自己紹介に感謝して。

内藤さんと早坂さんの卓話に感謝します。

内藤会員、早坂会員の卓話に感謝！

中山 元宏 会員
佐々木 亘 会員

【幹事報告】津留 三枝子 幹事



《回覧物》

- ・ハイライトよねやま 313号
- ・コーディネーターニュース5月号
- ・富津中央 RC 親睦ゴルフコンペの案内
すでにメールで出欠をいただいておりますが、未回答の方は、出欠の記入をお願いします。

《連絡事項》

- ・次週 4/27 は、夜間例会です。
お間違いのないようお願いいたします。

【その他の委員会報告】

❁私の記念日❁

領家 宏治 会員 (4/19 結婚記念日)

28 回目の結婚記念日でした。

きれいなお花をいただき、ありがとうございました。



【出席報告】鈴木 慶太 親睦担当部門員

会員数	出席会員	欠席会員	出席免除
24 名	19 名	3 名	2 名
出席率		前々回修正出席率	
86.36%		78.26%	
欠席者	橋本会員、遠山会員		
メイクアップ	鈴木 和弘会員		

【プログラム】新入会員自己紹介

内藤 夕美子 会員



株式会社 HIMAWARI 内藤夕美子です。

1977 年 1 月生まれ、49 歳です。

出身：袖ヶ浦 市内蔵波中⇒志学館高校⇒県立衛生短期大学（県立保健医療大学看護学科）

1998 年看護師免許取得

船橋市立医療センター 救命救急 8 年

さつき台病院 外科、整形 17 年勤務

2022年9月株式会社HIMAWARI設立
ふたば 袖ヶ浦、市原 2か所 重症心身障害児者、医療的ケア児者ためのデイサービス事業をしています。

小、中学生時代は真面目。中学では生徒会役員もしていました。高校時代も成績優秀でした。今まで、高校時代の話をするときは、チアガールをやっている、3年の時野球部が甲子園出場したという、いい思い出の話しかしていませんでしたが、実は2年生の時に停学処分を受けたことがあります。罪名は：飲酒、深夜徘徊。

夏大会直前、チアメンバー多く含たクラスメイト十数人で確か、体育祭の打ち上げでした。当時高校生でも居酒屋に入れる時代。お酒を飲んで騒いでも、周りの大人に注意されることもなく、通報されることもなく、店からも何も言われない時代でした。

なんでばれたかという、1人が急性アルコール中毒で運ばれました。運が悪く、倒れた同級生は寮生で実家は広島。広島から両親を呼び、学校にも連絡され、大騒ぎとなりました。

その場に参加していた十数人が停学2週間の処分となりました

停学は夏休みに入ってから行われ、夏休み中に毎日学校行って、奉仕活動 グランドの草、石灰運び、午後は、閉じ込められて反省文、膨大なワークが配られ自習をするという生活を送りました。

チアの活動の野球応援も行けず、チアのフォーメーションにも穴をあけ、大変な迷惑をかけた歴史があります。

この停学のせいで、後の大学受験でせっかく成績よかったのに、大学指定校推薦もらえず、自力で受験しないとイケない事態となりました。

3年生の時、なんと野球部が甲子園出場。チアとして一緒に甲子園球場に行き、甲子園球場で応援をすることができました。

大体自己紹介といわれると、今まではこの甲子園をチアで経験した話しかしてきませんでした。今回初めて停学の話の人前で話しました。

大学時代は車にはまって、スカイライン 32GTRのルーレット族に憧れてしまい、夜の首都高を私も一緒にグルグルと回っていました。スカイライン、スープラ、180、シルビアなどのチームが週末の夜、集団で走っていて、それらの車を首都高をグルグル走りながら眺めてました。最後は大黒パーキングに行って、車を眺めるとい遊びに明け暮れていました。

F1を見に鈴鹿サーキットには6年連続ぐらいで行きました。

大学も無事卒業もでき、国家試験にも合格し、卒後は船橋市立医療センターの救命救急センターで8年勤務。看護師として鍛え上げられ、その後袖ヶ浦に移り住み、さつき台病院で17年。救急外来、外科、整形外科病棟を経験。看護師は25年やってきました。

さつき台病院在籍中 2022年9月に株式会社HIMAWARIを設立し、翌年の2023年3月で退職、4月に現在のふたばという重心、医ケア対応のデイサービスを開所しました。事業開始3年目で市原市に2店舗目をオープンし、現在は袖ヶ浦と市原で2事業所を運営してます。

なんでこの事業をやろうと思ったかという、こういった医療ケアが必要な子供は現在22,000~23,000人ぐらいいるといわれていて、大人も合わせると統計は出ていないのですが、相当数いる。

このうちの4人に1人は、人工呼吸器がないと生きられない状況。医療の進歩により、助かっても、医療ケアが必要な子供が年々増えてきている。医療的ケアが必要な子供の数は10年前と比べ2倍以上になっています。

この子どもたちは、親が24時間付きっきりで介護をしなければならない現状があり、預かって

くれる保育園などの施設はなく、家族が社会から孤立して頑張っているという、現実があります。こういった子どもとお母さんを助けたいという思いで、看護師の力を活かし、医療的ケアのある人を預かれる施設をつくりました。目的は、頑張っているお母さんを休ませてあげたい。お母さんが、自分自身の人生を楽しむ時間をもってもらいたいという思いから作りました。これは弊社のベースとなる考え方、理念でもあります。

現在は、法人全体で看護師 15 人、理学療法士、5 人、作業療法士 1 人、言語聴覚士 2 人、保育士 3 人、指導員 3 人のスタッフで利用者と家族を支えています。現在、開業して 4 年目になる会社を経営しています。

この事業について簡単に説明しましたが、もっと詳しくということであれば、また機会をいただき、お話ししたいと思います。

【プログラム】新入会員自己紹介 早坂 信夫 会員



荏原製作所 総務・環境管理課の早坂でございます。

これから、新入会員自己紹介ということで、始めさせていただきます。先日の井木さんのような、武勇伝はありませんのでご容赦ください。

1973 年 6 月 24 日に極平凡な家庭の長男として、この世に生を受けました。

兄弟は 2 歳下の弟がおり、現在の木更津第二中学校の裏あたりにあった、小さい戸建てアパートに 4 人家族で住んでいました。

幼少時期は、おとなしく、引っ込み思案な性格でしたが遊びはワイルドでした。

カブトムシやクワガタムシ、ザリガニ、ドジョウを捕まえて飼育したり、野山を駆け回っていた記憶があります。

また、ヘビを捕まえて振り回して投げ飛ばすなど、訳の分からない遊びをしてました。

当時は、マムシとアオダイショウは毒があるので注意しろと近所のお兄ちゃんに言われていたのでその他のヘビを捕まえて遊んでいましたが、時が経って聞いたところでは、アオダイショウには毒は無く、ヤマカガシに毒があることを知りました。知らないとは恐ろしいことで、散々ヤマカガシを捕まえては投げ飛ばしていたことを思うと、少しぞっとします。

無事に生きながらえて 1980 年に木更津の小学校に入学します。ここから、「鍵っ子」生活の始まりです。

両親共働き、弟は保育園に通っていたので、小学校から帰ると家で 1 人です。この当時には、いくつかエピソードがあります。当時は地域の子供を近所の方が良く見てくれていました。両親には何件かタレコミが入っていたようです。

(後から聞いたことですが…)

エピソード 1：なんちゃってボヤ事件

私が小学校から帰り 1 人で家にいた時のことです。近所の方が窓の外から見ると、早坂家の中で赤い光がガラス越しに見えたので、ビックリしたというのです。慌てて中を覗くと、私が居ました。そして、赤い光の正体は、なんと「こたつ」でした。家に帰った早坂少年は寒さを凌ぐために、布団が掛かっていない「こたつ」を付けて下にもぐり込み、暖を取っていたのです。見た方はビックリしたことと思いますが、本当

に間抜けな所業でした。

エピソード2：駄菓子屋1万円事件

お腹がすいた早坂少年は、近所に駄菓子屋があることを知っていました。1人で行くことは無かったのですが、その時はよほどお腹がすいていたのでしょう。どこから1万円をゲットしたかは覚えていませんが（お年玉?）、小学校1年生が一人で1万円を握りしめ駄菓子屋に行き、数十円の駄菓子を買いに来たことに驚き、後に両親のところへ来て話したようです。

とても不憫な子でした。

学年が進み小学校3年生の時に、君津市の小糸地区に引っ越すことになり転校することになります。転校してからは周りの友達の環境も変わり、放課後は山遊びや川遊びはグッと減り、小学校で野球やサッカーなどのスポーツをするようになりました。運動神経は意外と良く、徒競走は学年で2番目に早かったので毎年運動会では代表リレー選手として出場してました。6年生の時には地区のサッカー対抗戦の学校代表チームの一員に選ばれたりもしてました。

1986年、地元の中学校に入学します。中学校では軟式野球部に入部しました。遊びの野球はしていましたが、部活でガッツリするのは初めてなので上手ではありません。しかし、なぜか3年生の先輩の目に留まり、しごかれることになります。（良い意味で）

部活が始まると、アップのランニングからキャッチボール、トスバッティングなどの相手をさせられます。キャッチボールと言われれば、ダッシュで良いボールを取りに行き、トスバッティングと言われれば先輩用のバットを取りに走ります。また、ミスなどできないのでこっちは必至です。何人か同じような1年生はいましたが、当時1年生は、ボール拾いしかさせてもらえないのが通常なので、逆に充実した時間でした。おかげで、結果的に短時間で上達できたの

だと思います。決して強いチームではありませんでしたが、2年生でベンチ入り、3年生はレギュラーで試合に出場しました。3年生に感謝！

1989年4月 千葉県立の商業高校に入学します。人生初めての挫折を味わいました。

第一希望の学校を諦めた進学です。入学試験の直前で進路を変更しました。

色々理由はありましたが、詳細は割愛します。入学時点で高校卒業後に就職することを決めていたので、とりあえず学校で取れる資格を取ろうと思いチャレンジしました。簿記、そろばん、英検、情報処理、販売士検定など、どのような職業に就くかは決めていませんでしたが、就職に有利になればと思い、最低限の資格は取りました。3年生の夏に進路を決めるのですが、やはり中々やりたいことが見つかりません。その時、仲間の1人が家業で材木を取り扱っていたこともあり、建築関係の道に進むと言いました。そこで、図面書きのことを知ります。私はなぜか「建築」という部分ではなく、「図面書き」に興味を持ちました。設計というキーワードに引っ掛かったのが1社目に入社した企業です。

1992年4月、高校を無事卒業してとある会社に入社します。産業機械や化学・鉄鋼プラントなどの機械設計、CAD設計、CAD・CAE解析などを事業としている企業です。私が社会人としての礎を築いた場所です。そこでは、設計の基礎を1から学びます。当時は、まだ手書き図面が使われていましたので、ドラフターに向かって「線の書き方」「文字の書き方」から練習し、「材料力学」など講義を受けながら社会人として教育してもらいました。同期は5人居ましたが、4人は高校生、1人は専門学校生でしたので会社としても教育するのは大変だったと思います。そんな同期は皆、私も含めて退職しているので申し訳ない気持ちもあります。

経験を積んで当時の新日鉄君津製鉄所 生産技

術部の「設計室」に異動となりました。

そこでは、「熱延工場」を担当して新日鉄の担当者と打ち合わせをし、設備の改善や品質向上などの案件の計画図を作成する業務に従事しました。既設の設備図面が全て揃っていないので、現場調査が必要なことが多くありました。ヘルメット、眼鏡、安全帯、スケッチ道具を持って現場に繰り出し、油まみれになってスケッチしたことは、今でも懐かしく思います。加熱炉や圧延機の中など通常入らないような場所にも行くことがありました。

ここでは、「熱延工場」だけでなく製鉄所内の色々な場所にも行く機会があり、設計者としての基礎が築かれた時期でもあります。

2006年に大きな転機が来ます。結婚し、子供も生まれた時期ですが、転職を決断しました。

これまでは、新日鉄の担当者の要望する図面（計画図）を書くまでが仕事でしたが、実際に自分の図面で製品が作られるところまでを経験できる職場に興味を持ったのがきっかけです。そこで、荏原製作所と出会います。

「荏原のポンプ」は今までの仕事の中でも採用してきたことはありました。その企業が求人を出していて希望する「ものづくり」に携われるチャンスがあるということで、思い切って応募した次第です。

結果は、ご縁が無かったということで不合格の知らせが届きました。が、荏原エリオットで設計できる人を探しているとのことで、声をかけていただきました。設計をしながら、実際のものづくりのすぐ近くで仕事ができる環境があるということで、自分の希望が叶う職場と判断して決めました。

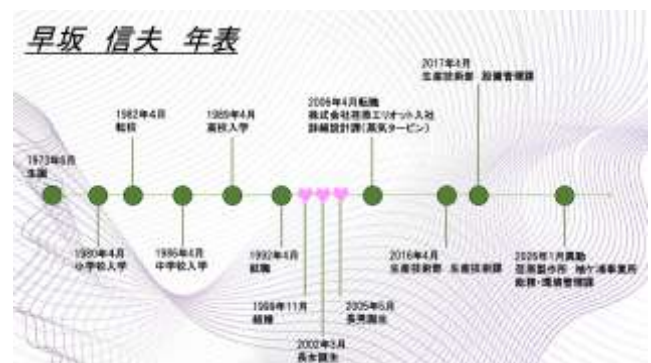
そこから10年、荏原エリオットの主製品であるコンプレッサーの駆動用として使用する蒸気タービンの設計業務に従事して経験を積ませていただきました。ここでの苦労は、開発部隊がアメ

リカのジャネット工場にあるのですが、設計を進めるための情報が中々届かないことでした。情報が来ないまま図面提出期限が迫ってくる状況を打開するために、アメリカ人につたない英語でメールしなければいけないことが非常に苦労しました。

2016年からは生産技術部・生産技術課を経て、設備管理課へ異動となりました。ここでは、「突発故障による生産活動を止めない」ことを目標に、生産設備の維持・管理業務に従事しました。ここでの苦労は、故障した設備を早急に復旧しなければならないのですが、自分の力ではどうにもならないケースがあります。しかし、現場は早く直せと当然言ってきますので、その狭間で押しつぶされそうになります。精神的につらかったです。

2026年1月、現在の荏原製作所 袖ヶ浦事業所 総務・環境管理課に異動になりました。

これまでの仕事と全く違う業務なので、戸惑っておりますが部署のメンバーにも助けられ、少しずつ慣れてきました。



ここからは、家族の紹介をします。私の人生にとって、最も重要で大切な存在です。

長女は2002年に授かりました。小さいころからとても頑張り屋さんでした。現在は、名古屋で胚培養士（エンブリオロジスト）としてお母さんになりたい人の手助けをしています。不妊治療（体外受精・顕微授精）の現場で、卵子と精子を受精させ、受精卵（胚）を培養・凍結・

管理する専門職です。国家資格ではありませんが、高度な専門技術と知識が必要で、妊娠率を左右する重要な役割を担います。

長男は2004年に授かりました。小学校2年生から野球を始めました。ここから、早坂家は彼の野球中心で回っていきます。中学ではクラブチームでプレーして高校野球も頑張ってくれました。3年生の最後の大会はチームでコロナウイルス感染が広がった影響もあり、1回戦で敗退してしまい少し残念な形で終わってしまいましたが、今でも大学で野球を続けてくれています。彼が野球を始めた時から今でも彼の試合観戦は妻との楽しみです。子供は私の宝物であり一番大切な存在です。

最後は、妻です。地元の同級生です。彼女は何よりも子供を優先します。子供を授かった時から子育てを全力で楽しみました。子育てがひと段落した今は、時間が許す中でボランティア活動に参加しています。これから私も袖ヶ浦ロータリークラブに入会して活動していきませんが、一番近くに活動している先輩がいたのです。彼女は色々声を掛けられて、いくつかの活動に参加しています。子供に対する愛情の注ぎ方、人を助ける優しさを持つ彼女を私は尊敬しています。家族は私の人生を豊かにしてくれました。

最後に、これから皆さまと一緒に袖ヶ浦ロータリークラブの一員として参加させていただきます。ご指導ご鞭撻のほど、よろしくお願いいたします。



例会予定

- 5/4(月) 休会 (みどりの日)
- 5/11(月) 委員会卓話「青少年奉仕について」
鈴木和弘 担当部門長 ※定例理事会
- 5/18(月) 会員卓話「入会して3年目を迎えて」高木会員
- 5/25(月) 会員卓話「次年度に向けて」
斉藤会長エレクト ※夜間例会

会報担当部門より

クラブ週報の原稿は例会の翌日(火)中に事務局へ送付お願いいたします。

*会員皆様のスナップ写真の投稿、協力を宜しくお願いします。

欠席・ZOOMの連絡は当日10時20分までにお願いいたします。